

福井県議会議長 関 孝治 殿

若狭連帯行動ネットワーク

核燃サイクル開発機構の会議費流用(飲酒接待費)問題 に関する緊急申し入れ

去る平成14年8月2日、私たちはアトムプラザにおいて『敦賀本部福井事務所における自治体(福井県、県内市町村)職員、議員及びマスコミ関係者に対する会議費に係る会議開催申込書、出金表(平成12年度分)』の公開を請求し、敦賀本部の会議開催及び会議費執行に係る55件(約270万円)の資料が公開されました。このことが国会で問題となり、処分者まで出たことはご承知の通りです。

またその後、北川れん子衆議院議員が、核燃サイクル開発機構の平成10～13年の各年度の会議費総額の提示を求めたところ、平成12年度分の敦賀本部の会議費は385件、総額1529万円であることが判明しました。それによると核燃サイクル開発機構全体の会議費(飲酒接待費)は、平成10年度が1121件で総額5405万円(うち敦賀分は276件 1200万円)、平成11年度が1105件で総額5296万円(うち敦賀分は353件 1825万円)、平成12年度が897件で総額が4430万円(うち敦賀分は385件 1529万円)となっております。平成10年度以前も(旧動燃時代も)同じように多額の流用がなされていたのでしょうか。総額にすると、これまでに何億円ものばく大な血税が研究開発費の名目で福井県議会議員始めとする政治家などの調略懐柔を目的に飲酒接待費として流用され、文字通り湯水のように浪費されていたのですから、ゆゆしいかぎりです。これに憤りを感じぬ国民はいないでしょう。

すでにご承知の通り、福井県議会議員のみなさんも、その会議費によって手厚くもてなされていたことが国民すべての知るところとなっております。まったく恥ずべきであります。

過去においても「もんじゅ」立地・建設の段階で、このような飲酒接待を受けつつ県議会内部ではたして公正な議論が行われていたのか疑問ですし、現在も「もんじゅ」運転再開の是非をめぐる議論が果たして県民の安全を第一に考えてなされているのか疑問です。

福井県議会議員のみなさんにおかれては、この問題の一方の当事者であることを真摯に猛省され、市民オンブズマンの方たちの質問に誠実にかつ早急に答えられんことを強く申し入れるものです。なお、大多数の県民および国民がこの問題のゆくえを注視しております。

以 上